

2023年10月24日 全16頁

# 「東北」等で改善、「近畿」等は悪化～地域で異なる回復基調、海外動向には注意

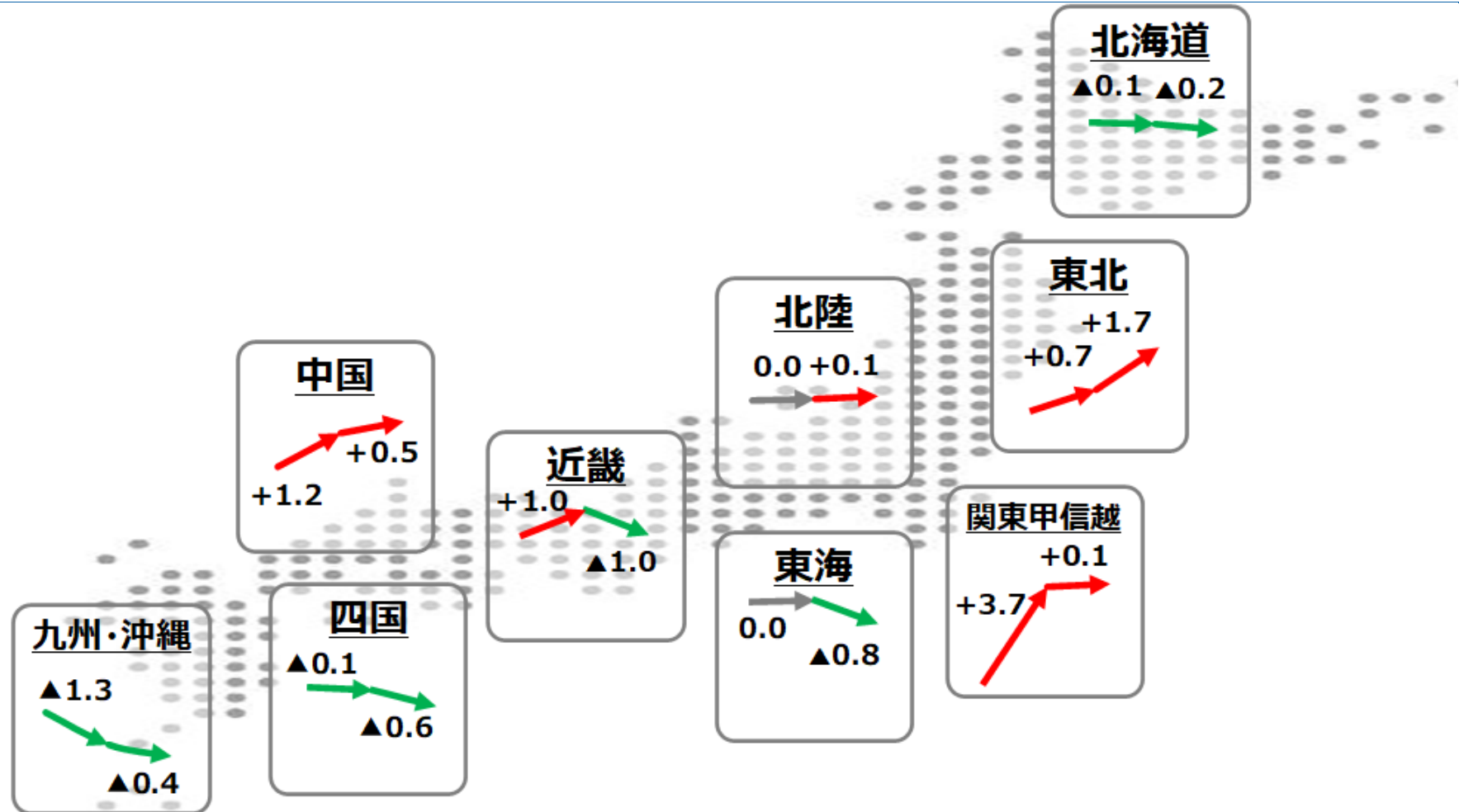
## 2023年10月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄  
主任研究員 新田 堯之

### [要約]

- 2023年10月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、「東北」など4地域で改善した一方、「近畿」など5地域で悪化した。
  - 分野別に見ると、家計関連のインデックスのうち、消費は「関東甲信越」「北陸」などで改善した。特に、百貨店の売上高や外食・旅行関連など対面型サービス、家電販売が増加していることが寄与している。一方、「東北」では百貨店不振の影響で消費は悪化した。背景には行動制限緩和による首都圏への需要流出や旅行などの支出を優先する動きがあるようだ。住宅投資は資材価格高騰を受けて「近畿」「九州・沖縄」などでマイナスとなった。雇用・所得環境は、「北陸」では観光需要の持ち直しに伴うアルバイトの採用強化や物流業界の2024年問題対応によるドライバー確保の動き、また「四国」では人材確保のための賃上げ等を背景に改善した。企業関連では、設備投資は収益悪化などの影響を受けて「四国」などでマイナスとなった。生産は「中国」「東北」などで改善した一方、「四国」「九州・沖縄」「関東甲信越」などで悪化した。特に、「中国」では電子部品・デバイス、「東北」では輸送機械や食料品がプラスに寄与している。一方、「四国」では紙・パルプ、「九州・沖縄」では汎用・生産用・業務用機械や鉄鋼・非鉄金属、「関東甲信越」では電気機械が悪化した。また、輸出は「北海道」でホタテなどの水産物、「東海」で電子部品・デバイスといった輸出の減少を受けて悪化した。企業マインドは「東北」で改善したが、「四国」「近畿」「北陸」などでは悪化した。「東北」では対個人サービスや飲食・宿泊サービスなどがプラスに寄与する一方、「四国」では対個人サービスや食料品など、「近畿」では宿泊・飲食サービスや紙・パルプなどがマイナスとなった。
  - 全国的に見ると、新型コロナウイルス感染症の影響緩和に伴って、消費や生産が改善傾向にある地域が見られる。特に、外出機会の増加によるサービス消費の回復や、工場稼働率の引き上げによる生産量の増加が顕著だ。一方、企業の業績不振や将来に対する不確実性の高まりによる企業マインドの悪化や住宅投資の減少、または海外の経済状況の悪化などによる輸出の減少もあって、経済全体のインデックスが低下している地域も見られる。全体として、日本経済は回復基調にあるものの、地域による違いが大きい状況だ。引き続き、海外経済の不安定性等のリスク要因に対する警戒が必要となるだろう。
- ※ 本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発はデータドリブンサイエンス部 DS アナリティクスチーム、抽出データのチェック作業はリサーチ業務部データバンク課が担当している
- ※ 本レポートの文章は GPT-4 ベースの ChatGPT（OpenAI）が出力した内容を基に研究員が執筆した。

## 大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (23年4月→7月、7月→10月)



(注1) 各地域の数値は、2023年4月から7月の変化幅と2023年7月から10月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

## ヒートマップ：大和地域 AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（23年7月→10月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	▲0.2						
東北	+1.7						
北陸	+0.1						
関東甲信越	+0.1						
東海	▲0.8						
近畿	▲1.0						
中国	+0.5						
四国	▲0.6						
九州・沖縄	▲0.4						

(注) さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

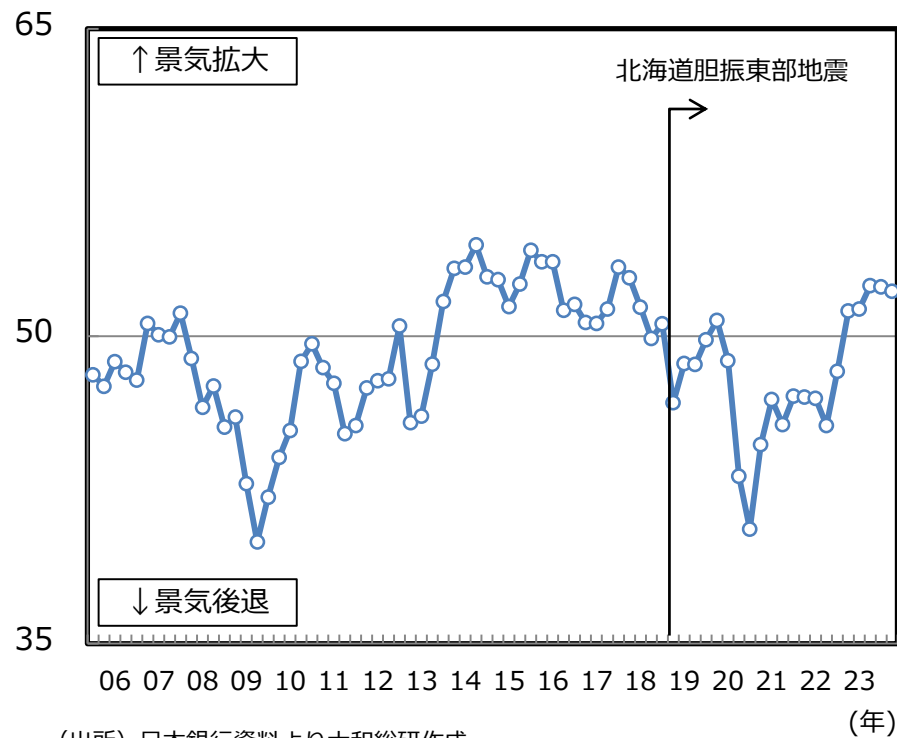
## 大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (23年7月→10月) とポイント

北海道	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(23年7月:52.4→10月:52.2)。輸出などの判断の悪化がインデックスの低下要因となった。
東北	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(23年7月:48.8→10月:50.5)。消費は悪化したものの、生産および企業マインドの改善がインデックスを押し上げた。
北陸	大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(23年7月:50.7→10月:50.8)。企業マインドは悪化した、消費や雇用・所得環境などが改善したため、インデックスはわずかに上昇した。
関東 甲信越	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(23年7月:50.3→10月:50.4)。生産などは悪化した、消費が改善したため、インデックスはわずかに上昇した。
東海	大和地域 AI インデックスは、5 四半期ぶりに下落した(23年7月:52.1→10月:51.3)。輸出などの判断の悪化がインデックスの低下要因となった。
近畿	大和地域 AI インデックスは、5 四半期ぶりに下落した(23年7月:51.7→10月:50.7)。企業マインドや住宅投資などの悪化がインデックスを押し下げた。
中国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(23年7月:51.9→10月:52.4)。生産の改善がインデックスを押し上げた。
四国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(23年7月:51.2→10月:50.6)。雇用・所得環境は改善したものの、企業マインドや生産、設備投資などの悪化がインデックスを押し下げた。
九州・ 沖縄	大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で下落した(23年7月:52.2→10月:51.8)。生産や住宅投資などの悪化がインデックスを押し下げた。

## 北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(23 年 7 月:52.4→10 月:52.2)。
- 輸出などの判断の悪化がインデックスの低下要因となった。
- 中国による水産物の輸入停止はホタテなどの水産物の輸出や水産加工品の生産にマイナスの影響を及ぼした。

### 大和地域 AI インデックスの推移



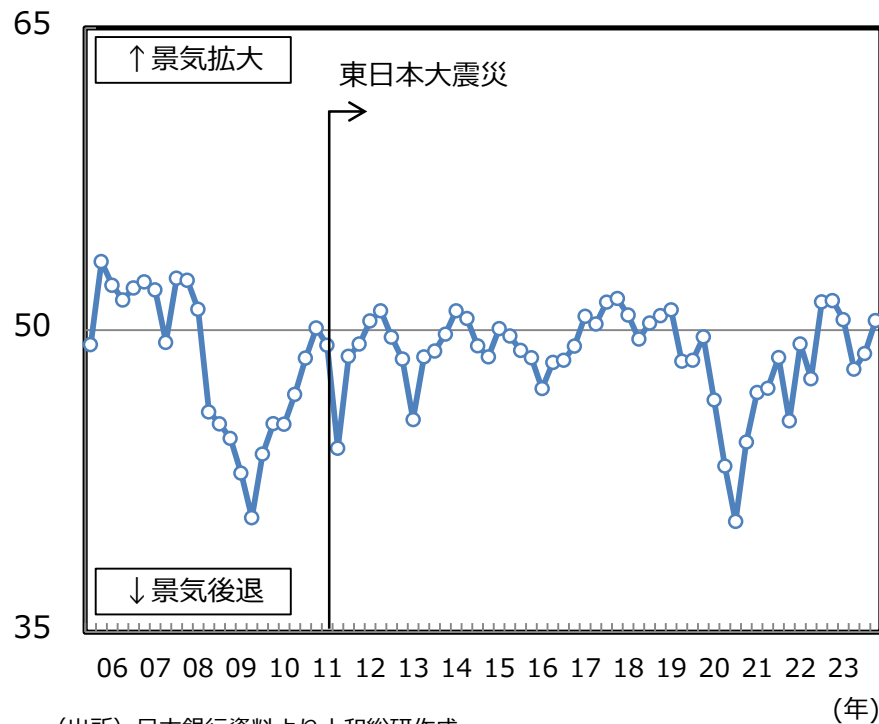
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 7 月	23 年 10 月
【総括判断】	↑
緩やかに持ち直している	持ち直している
【輸出】	↓
高水準で推移している	弱めの動きがみられる
【生産】	→
横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる	横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる

## 東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(23 年 7 月:48.8→10 月:50.5)。
- 消費は悪化したものの、生産および企業マインドの改善がインデックスを押し上げた。
- 消費は百貨店不振などで悪化した但、背景には行動制限緩和による首都圏への需要流出や旅行などの支出を優先させる動きがあるようだ。一方、対個人サービスや飲食・宿泊サービスなどの業種で企業マインドは改善した。

### 大和地域 AI インデックスの推移



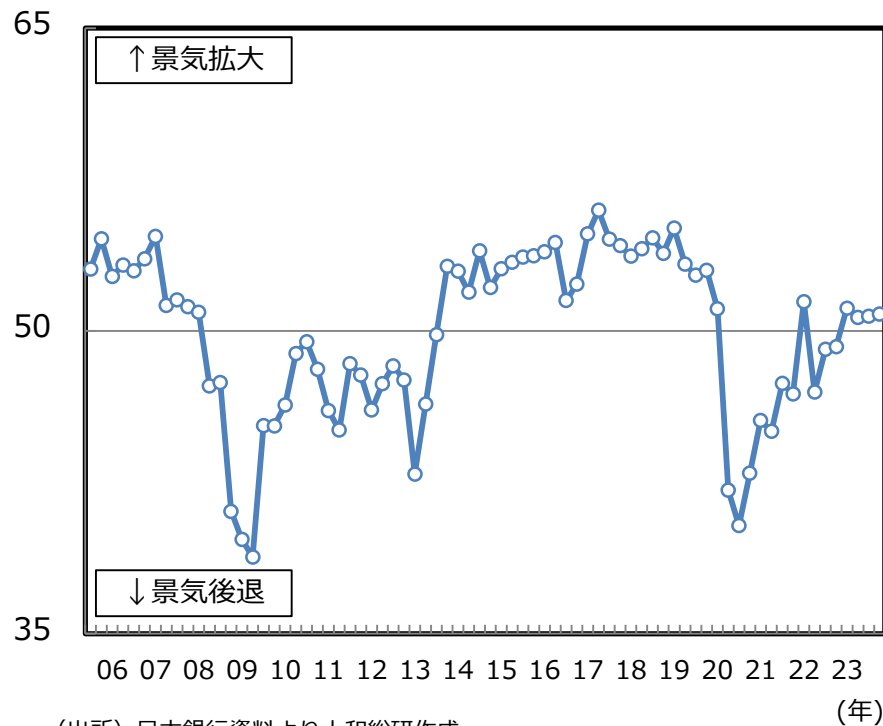
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 7 月	23 年 10 月
【総括判断】	↑
一部に弱さがみられるものの、基調としては緩やかに持ち直している	持ち直している
【企業の業況感】	↑
横ばいとなっている	改善している
【生産：輸送機械】	↑
供給制約の影響を受けつつも、持ち直している	持ち直している

## 北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(23 年 7 月:50.7→10 月:50.8)。
- 企業マインドは悪化したが、消費や雇用・所得環境などが改善したため、インデックスはわずかに上昇した。
- 雇用・所得環境は、「北陸」では観光需要の持ち直しに伴うアルバイトの採用強化や物流業界の 2024 年問題対応によるドライバー確保の動きを受けて改善した。

### 大和地域 AI インデックスの推移



### さくらレポートにおける分野別の判断

	23 年 7 月	23 年 10 月
【総括判断】		↑
持ち直している		緩やかに回復している
【個人消費】		↑
着実に持ち直している		物価上昇の影響を受けつつも、 緩やかに回復している
【住宅投資】		→
減少している		減少している

## 関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(23 年 7 月:50.3→10 月:50.4)。
- 生産などは悪化したが、消費が改善したため、インデックスはわずかに上昇した。
- インバウンド客、国内客ともに需要が旺盛だった背景を受け、観光業が好調だったことが消費全体にプラスに寄与した。一方、世界的な最終製品需要の落ち込みを受けて、スマホ・P C 向け部品の生産は落ち込んでいる。

### 大和地域 AI インデックスの推移



### さくらレポートにおける分野別の判断

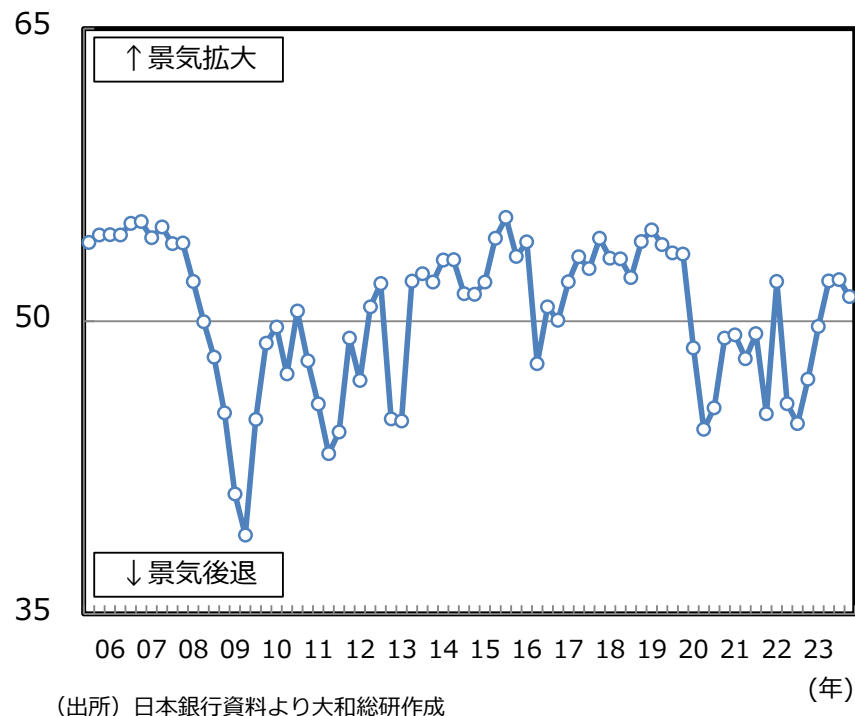
23 年 7 月	23 年 10 月
【総括判断】	↑
持ち直している	緩やかに回復している
【消費】	↑
物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに増加している	物価上昇の影響を受けつつも、インバウンド需要による押し上げ効果もあり、緩やかなペースで着実に増加している
【生産：電気機械】	↓
横ばい圏内の動きとなっている	弱めの動きとなっている



## 東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、5 四半期ぶりに下落した(23 年 7 月:52.1→10 月:51.3)。
- 輸出などの判断の悪化がインデックスの低下要因となった。
- スマホ向けや PC 関係の輸出は減少した。消費はインバウンドの需要が比較的高額な商品へシフトしていることがプラスに寄与した一方、宿泊業では人手不足が深刻化していることがマイナス要因となった。

### 大和地域 AI インデックスの推移



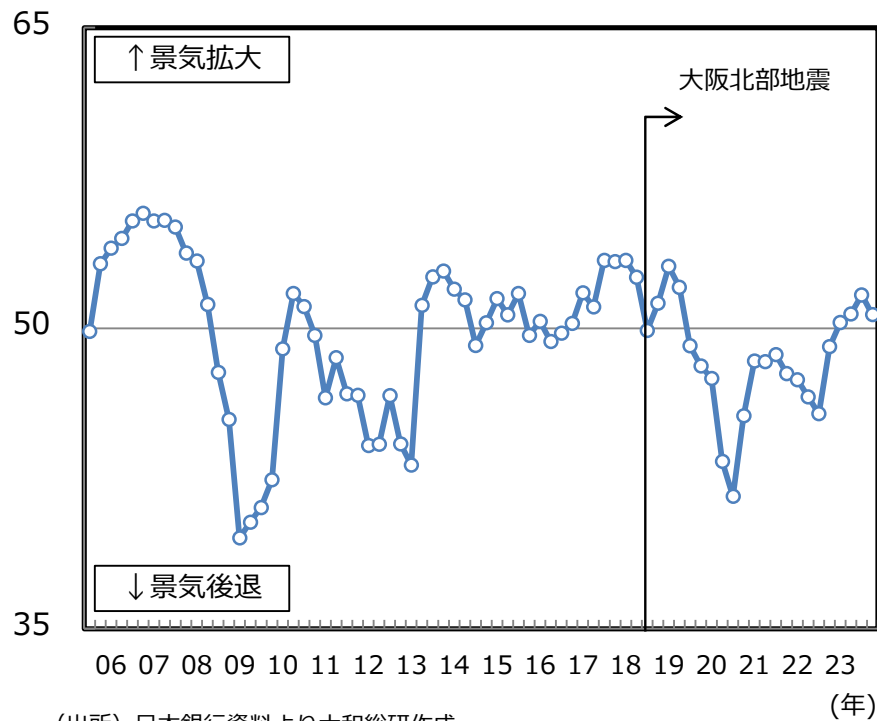
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 7 月	23 年 10 月
【総括判断】	→
持ち直している	持ち直している
【生産】	→
持ち直している	持ち直している
【個人消費】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している

## 近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、5 四半期ぶりに下落した(23 年 7 月:51.7→10 月:50.7)。
- 企業マインドや住宅投資などの悪化がインデックスを押し下げた。
- 企業マインドは宿泊・飲食サービス、紙・パルプ、非鉄金属といった業界が悪化した。住宅投資は資材価格高騰に伴う住宅価格高騰がマイナス要因となった。

### 大和地域 AI インデックスの推移



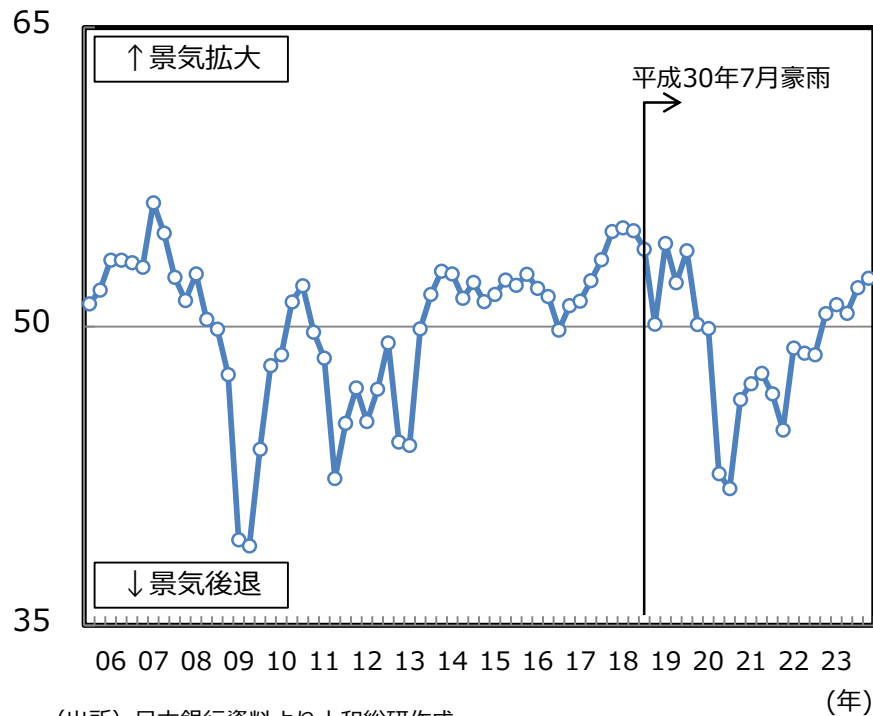
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 7 月	23 年 10 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるものの、持ち直している	一部に弱めの動きがみられるものの、持ち直している
【企業の業況感】	↓
総じて改善している	悪化している
【住宅投資】	↓
緩やかに増加している	横ばい圏内で推移している

## 中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(23 年 7 月:51.9→10 月:52.4)。
- 生産の改善がインデックスを押し上げた。
- 生産は電子部品・デバイスがプラスに寄与している。これは、半導体需要の先行きの回復を見込んだ生産水準の引き上げを反映している。

### 大和地域 AI インデックスの推移



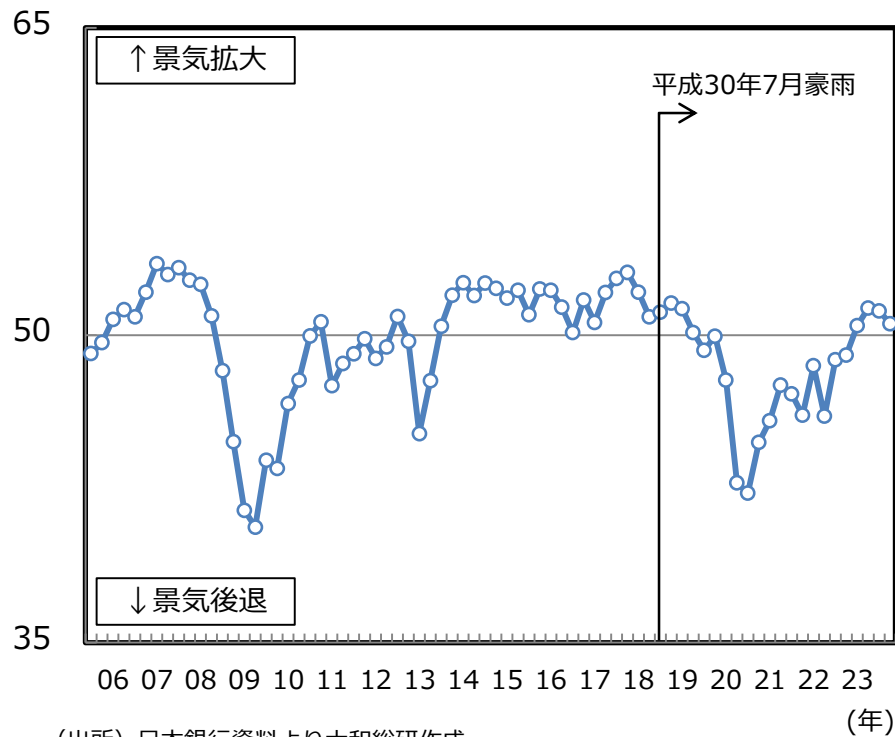
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 7 月	23 年 10 月
【総括判断】	↑
持ち直している	緩やかに回復している
【個人消費】	→
緩やかに回復している	緩やかに回復している
【生産】	↑
持ち直しのペースが鈍化している	緩やかながら持ち直し基調にある

## 四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(23 年 7 月:51.2→10 月:50.6)。
- 雇用・所得環境は改善したものの、企業マインドや生産、設備投資などの悪化がインデックスを押し下げた。
- 企業マインドは対個人サービスや食料品などの悪化、生産では紙・パルプの生産の悪化が全体を押し下げた。

### 大和地域 AI インデックスの推移



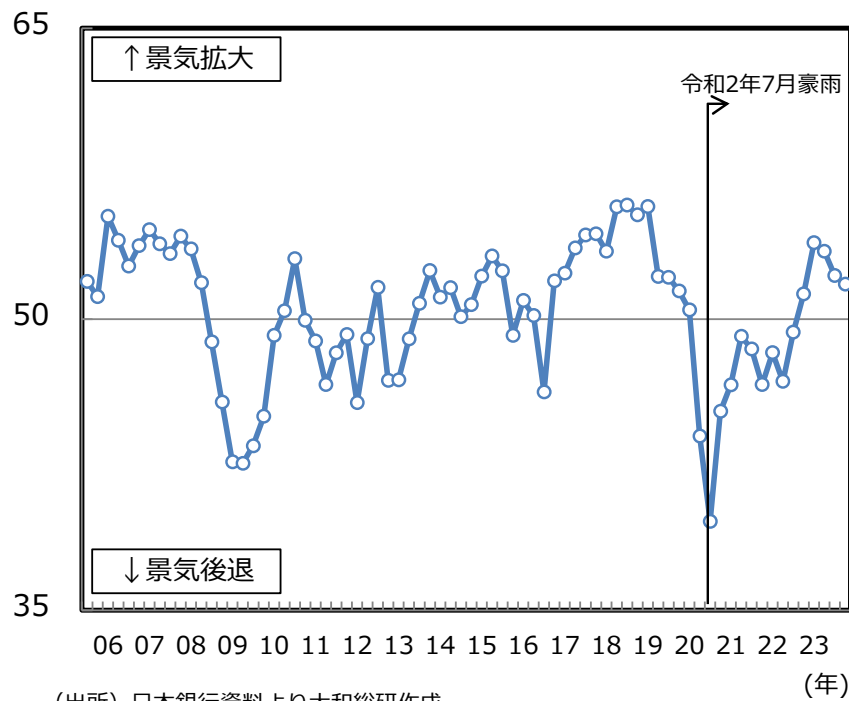
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 7 月	23 年 10 月
【総括判断】	↑
緩やかに持ち直している	持ち直している
【企業の業況感】	↓
改善している	非製造業を中心に 幾分悪化している
【生産：紙・パルプ】	↓
横ばい圏内の動きとなっている	減少している

## 九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で下落した(23 年 7 月:52.2→10 月:51.8)。
- 生産や住宅投資などの悪化がインデックスを押し下げた。
- 住宅投資は、資材価格高騰を受けて戸建の需要が減少しており、分譲でも価格上昇により購入を様子見する動きが一部で見られ始めている。生産では、汎用・生産用・業務用機械や鉄鋼・非鉄金属において悪化した。

### 大和地域 AI インデックスの推移



### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 7 月	23 年 10 月
【総括判断】	→
緩やかに回復している	緩やかに回復している
【住宅投資】	↓
持ち直しの動きがみられている	横ばい圏内の動きとなっている
【生産：鉄鋼・非鉄金属】	↓
持ち直しのペースが鈍化している	横ばい圏内の動きとなっている

## 本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが**我が国の大きな課題となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握することが必要**となる。
- 本レポートの特徴として、**AI モデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2023年10月19日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

[https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713\\_012142.html](https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html)

## 大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？

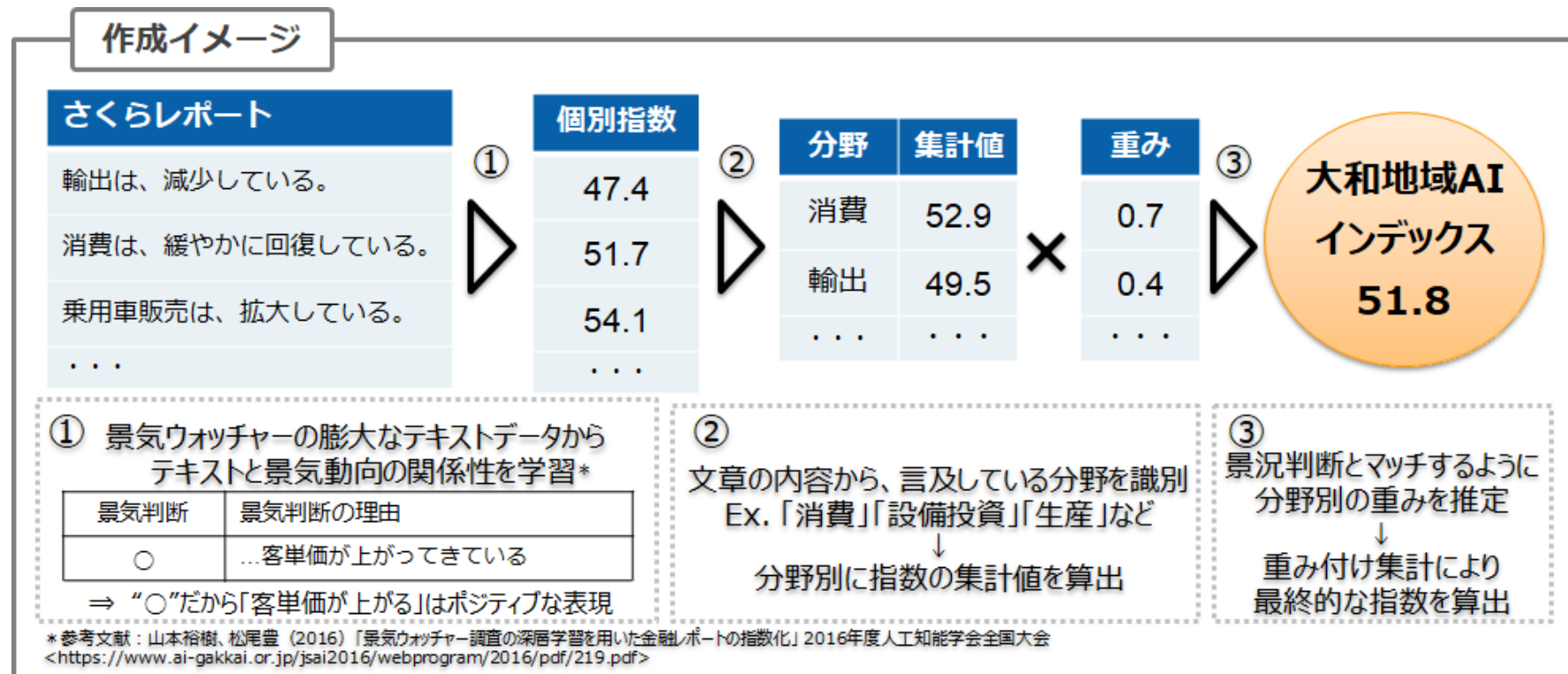
→ **地域別の景況感を AI モデルで算出した指数。**

※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。

AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習**。



## 日本銀行基準における地域区分

- このレポートは日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(出所) 日本銀行より大和総研作成